

第2回「河川環境実務者研修」開催報告



技術普及部 副参事 土門 晋

1. はじめに

財団法人リバーフロント整備センターでは河川生態学術研究に見られるように研究面から『川の自然再生』に関わってきた。しかし、実務者が研究の進捗を知る機会は論文や講演会などと少なく、『多自然型川づくり』や『川の自然再生』の技術を普及する機会の創出が課題であった。

そのため、当センターでは昨年より河川環境に関わる主にコンサルタントの技術者を対象に『河川環境技術者研修』を実施している。平成17年度は“多摩川”をサンプルとして10月31日～11月2日の3日間で9時間の講義に加え演習、論文作成、その他に現場視察を1日間実施した。

今年は職種、経験年齢を制限せずに募集を行い、行政、ゼネコン、メーカー、コンサルタントなどのさまざまな職種の経験年齢も入社すぐの方から経験年数30年のベテランまで多様な参加者となった。



講義の様子

2. 開催プログラム

1日目は主に『川の見方～河川環境に関する基礎技術を中心に』と題して次のようなプログラムとした。

- 1.多摩川の河川地形の形成過程をどのように読み取るか
河川環境管理財団 河川環境総合研究所長 山本 晃一
- 2.多摩川での共生の生態学の学び方
社団法人 淡水生物研究所 所長 森下 郁子
- 3.多摩川 そのエコバランス 都市と河川環境の均衡を目指して
福岡大学 教授 市川 新
- 4.多摩川での河川環境研究の取り組みと今後の方向について
東京農工大学 助教授 星野 義延
- 5.多摩川における市民レベルでの取り組みについて（市民からの視点）
多摩川の自然を守る会会長 柴田 隆行

2日目は前日の基礎技術をベースに『～現地踏査～現場の見方』と題して前日にご講義いただいた山本晃一先生、森下郁子先生と、現場の状況に詳しい京浜河川事務所河川環境課齋田課長に同行いただき現地研修を実施した。

3日目には『～河川環境の計画～計画立案に際しての考え方や留意点』と題して、行政の視点や現在の取り組み事例を紹介するため次のようなプログラム

とした。

- 6.多摩川における河川環境の取り組みについて（行政からの視点）
国土交通省京浜河川事務所 河川環境課長 齋田 紀行
- 7.多摩川での水辺の国勢調査のこれまでの成果と活用方法について
当センター技術普及部長 佐合 純造
- 8.多摩川における河原の再生をどうとらえるか
独)土木研究所 自然共生研究センター 皆川 朋子
- 9.自然再生計画の事例と課題
当センター研究第1部長 渡部 秀之
- 10.演習 自然再生事業の計画立案に関わる演習
- 11.論文作成

3. 研修のポイント

この研修における1つ目のポイントは1日目の河川に関わる際の基礎知識から3日目の自然再生への取り組みまで、多くの分野の先生にお話しただけの点であると考えている。例えば事業実施に関わる委員会では河道形成から市民活動まで多くの分野にまたがる場合がある。

2つ目のポイントは専門家が現地視察に同行する点であると考えている。今回は調布堰、二ヶ領宿河原堰、永田地区の3地点の視察を行ったが、河川地形、セグメントの考え方、河道の状況から魚の生



2日目の多摩川永田地区における現地研修

息環境を推測する専門家の見方をわずかであるが学ぶことができたのではないかと考えている。

4. まとめ

河川事業に関わる業務では幅広い知識と経験が必要と感じる機会は多い。そして、川の自然再生事業に際しては専門家の有す知見を実務者が利用する機会はますます増えると思われる。専門家と実務者をつなぐ一つのかたちとしてこのような研修の機会を今後とも企画していきたい。

謝辞：河川環境実務者研修の開催にあたり、ご講演いただきました講師の方々のご協力いただきました方々、ご参加いただいた皆様へこの場を借りてお礼申し上げます。